

臨地実習事前4種抗体確認及びワクチン接種の現状と取り組み

○木村 泰¹⁾、谷口智也¹⁾、望月泰男¹⁾、山藤賢¹⁾

(¹⁾ 昭和医療技術専門学校)

【はじめに】平成19年全国的に若者を中心として麻疹が大流行し病院関係者のみならず教育機関での休講など社会問題となった。これを受けて本校では学生を6ヶ月間と長期に渡り臨地実習に送り出すため、何より学生自身の身を守ると共に医療関係者・患者等への感染予防を目的としてワクチン接種を検討、実施している。現在のワクチン接種導入に至るまでの状況と今後について検討し、また学校としての取り組みについて報告する。

【方法】平成19年9月本校臨地実習33施設にアンケート調査(記入方式)を行った。内容は、①「貴院で実習を行う場合抗体検査は必要か」、②「必要な場合、抗体の確認方法は」、③「どの様な検査方法が必要か」、④「抗体を保有していない学生に対しワクチン接種は必要か」、⑤その他意見の五項目について実施した。

【結果】アンケート回収率100%の結果は、①抗体検査必要性：必要29施設(88%)、不必要：4施設(12%)、②抗体の確認(回答29施設)：医療機関24施設(83%)、母子手帳5施設(17%)、③検査方法(23施設；回答31、重複8)：HI法7施設(23%)、EIA法23施設(74%)、その他1施設(3%)、④ワクチン接種の必要性(29施設；回答30、重複1)：必要又は望ましい33施設(100%)、⑤その他の意見：24施設(73%)、「看護等他の部署も行っているのが必要。看護部の実習受入に準じて取り扱うこととなりました。理想的には行うべきだが、医療従事者の全てが検査及びワクチン接種をしているかと言えばそうではないので、実習生だけに強いるのは如何か。小児期のワクチン接種が必ずしも維持されないのが必要など」となった。以上の結果を受けて本校では平成19年より、第2学年生全員を対象に抗体価の確認およびワクチン接種を導入した。昨年、平成21年度の実施状況は、対象者：第2学年生59名、事前検査の結果としてワクチン接種の「必要がない」22名、「必要あり」37名となり、内訳は麻疹11名、風疹11名、水痘14名、ムンプス18名となった。またB型肝炎ワクチン及びツ反の確認は従来通り実施。尚、今年度は5月に説明会及び事前検査、6月の第1回接種まで実施、今後第2回及び3回は9月・10月に予定している。

【まとめ】本校ではワクチン接種における事前の数回に及ぶ説明会および保護者への手紙連絡を実施している。まず将来医療従事者となる学生にワクチン接種の必要性と理解を促し、事前検査・ワクチン接種・事後検査の一連の流れを通し、専門的な知識を身につけ、検査の重要性をより一層深めることを目的としている。また、学生本人が医療を受ける側となることによる体験も重要であり、本校では単にワクチン接種の受付・窓口だけでなく、学生への教育効果を期待したカリキュラムとしての位置付けを構築している。説明会は免疫学・免疫検査学の内容を意識している。毎年、教員により改訂したテキストを作成し説明会に臨むが、まず専任教員が専門的な知識を理解し、教員間でも共有化することが大切と考えている。また、接種医療機関の医師との相談・連絡も重要な鍵となる。今後、時代の要請により対象となるウイルスやワクチンも変化することが予想される。現在では一部の病院施設で、「必ずしもワクチン接種は必要ないのでは」との声も上がっている。本校では、医療現場と連携し時代に即した対応と社会現象に目をくばり、学生の学習環境を検討・整備することを心がけている。